

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 釣り中の海中転落事故が発生しています！

- ① 11 月 17 日の深夜、山形県鶴岡市の漁港防波堤で、釣人が突風にあおられて海に転落しました。転落者は、一緒に釣りをしていた友人の通報を受けて駆けつけた消防署員により、漁港の沖防波堤にしがみついているところを発見、無事救助され、低体温症等で入院したものの、生命に別状はありませんでした。当時の海水温は約 16 度。転落者は、ライフジャケットを着用していましたが、海に転落してから救助されるまで 1 時間以上経過していました。
- ② 11 月 26 日、山形県鶴岡市の磯場で、釣人が波をかぶって海に転落しました。転落後間もなく通行人が海上で手を振って助けを求めている転落者を見つけて消防へ通報、消防からの通報を受けた酒田海上保安部が水難救済会豊浦救難所に救助出動を依頼しました。転落者は、ライフジャケットを着用していて、海に転落してから約 40 分後に、同救難所所属船第 11 仁豊丸により無事救助されました。

①は、釣り中の事故防止のためのポイントのうち、「ライフジャケットの常時着用」と「仲間と複数での行動」が功を奏した事例です。

冬は海水温度も低くなります。海に転落した場合、浮かんでいることができても、急激に体温を奪われて体の自由がきかなくなり、意識も薄れていきます。まずは海に転落しないことを第一に考えて、細心の注意を払って行動しましょう！



海の安全情報 『海水温度と生存可能時間』について

次の表は、海水に浸かっている場合の海水温度と生存可能時間を表したものです。「低体温症」は体温が 35 度以下になる状態で、次第に動作が鈍く緩慢になり、中度では意識が混濁して、正しい応答が得られなくなります。その後は意識が無くなり、重度の非常に危険な状態になります。



海中では、泳ぎ回らずじっとしていることが、体力の消耗や体温の低下の防止に有効です。体温の低下を少しでも防止するため、できる限り熱放出低減姿勢（HELP：Heat Escape Lessening Posture）をとって救助を待ちましょう。

生存可能時間（特別な服を着ない場合）		IMO 船舶捜索救助便覧より	
海水温度	2℃未満	2～10℃	10～20℃
生存可能時間	45分以内	1.5～3時間以内	6～12時間以内

ワンポイント講座 海難事故防止のためのワンポイント講座です。今回は『河口付近の転覆事故防止』について。

小型船で外海に面した河口部を出入りする場合、「河口流」に注意する必要があります。

河口流とは、河口付近で発生する河川流と海浜流、潮汐流が入り混じった複雑な流れのことをいいます。河口周辺は河川の流れと海の流れが入り混じり、気象・海象や河川の流量、地形によって流れのパターンが変化し、複雑な流れになっています。また、河口流の作用により波が集中して波高が大きくなる場合があります、小型船の転覆事故が発生しやすいので、操船には十分注意する必要があります。

特に河川が増水している時には、河口流が強くなり、波の高さが異常に大きくなる場合がありますので、河口部を出入りする場合は、事前に気象・海象のチェックのほか、大雨などによる河川が増水状況もチェックし、増水している場合は出入りを見合わせるなどして、無理な航海を避けましょう。

【右の写真は秋田市雄物川河口の航空写真です。河口の沖合いに白波が立ち、周囲と異なっている様子がわかります。】



海の言葉 海や船に関する用語について解説します。今回は、『緯度と経度』について

海上で船の位置を表す場合、灯台などの物標からの方角（真北からの360度方位）と距離（例：金華山灯台から190度、3海里）又は、緯度と経度（例：北緯38度13.7分、東経141度34.3分）を使用するのが一般的です。

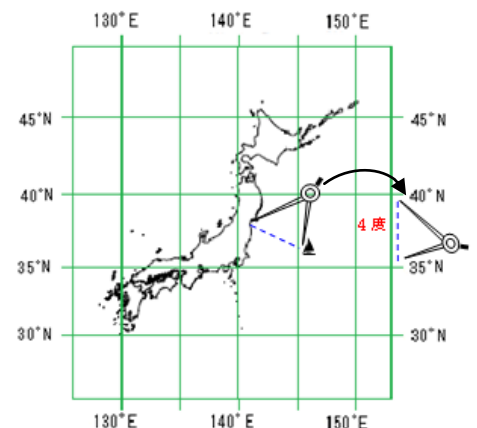
緯度は、「その点の地球楕円面に対する垂線が赤道面と成す角」と定義されていて、赤道面と南極点又は北極点との間の角度で表し、赤道を緯度0度、北極を北緯90度、南極を南緯90度として表します。また、1度を60分、1分を60秒として表します。

経度は、旧グリニッジ天文台を通る本初子午線と他の子午線との角度で表し、本初子午線を0度として、東側180度までを東経、西側180度までを西経として表します。

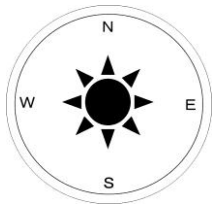
なお、日本における経度と標準時の採用については、明治十九年勅令第五十一号（本初子午線経度計算方及標準時ノ件）により、次のとおり定められています。

- 一 英国グリニツチ天文台子午儀ノ中心ヲ経過スル子午線ヲ以テ経度ノ本初子午線トス
- 一 経度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東経ヲ正トシ西経ヲ負トス
- 一 明治二十一年一月一日ヨリ東経百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

【参考】海図には、縦に緯度の目盛、横に経度の目盛が表示されていて、海図上の距離を測る場合は、測定する2点間の長さを緯度の目盛にあてて、何海里になるのかを測ります。右上の図で仙台港付近からヨットまでの距離は、緯度の目盛で測ると4度（240分）だとすると、約240海里となります。海図上で距離を測る場合は、必ず真横の緯度の目盛を利用します。



羅針盤 海に関するあれこれ、最近感じていることなど、編集担当者の四方山話的コラムです。今回は『シーマンシップ (その2)』について



「スマートで目先が利いて几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」

前回、この言葉を紹介したところでしたが、今回は、この言葉が持つ意味について説明をしながら、シーマンシップを語っていききたいと思います。

まず、「目先が利く」ということ。海の上での気象状況の変化は大変重要なことで、そのため、天気予報の確認や常に新しい気象情報の入手が大切です。また、それら天気の変化に備えることも大切なことです。このように先を見越した準備をすること、つまり予め備えるという先見性を持つということ、これが「目先が利く」ということではないでしょうか。さらに刻々と変化する事態に対処するためには、臨機応変な対応と迅速性が不可欠だということです。

次に、「几帳面」であること。これは、海に一度出ればそう易々と帰れないし、また狭く制約の多い船内では、物事を確実にやらなければならないことを表しています。いい加減では済まされない世界であるということです。そのためには何事も几帳面にやること、つまり確実性が求められるということです。

順番が逆になりましたが、「スマート」であること。これには、色々な意味が込められています。例えば、揺れる狭い船内では、機敏で無駄のない動作や行動をすること、服装や身なりもシンプルかつ機能的な船乗りに適したものであることなど。また狭い船内では、体型もスマートの方が適している… (?)。

最後になりますが、「負けじ魂」とは？ 何事にも負けない精神、不撓不屈の精神を持つということではないでしょうか。前にも申し上げたとおり、海というフィールドは、風の日だけではなく、嵐の時は簡単に人の命を奪ってしまう過酷な環境でもあるのです。そのような海を相手にする人は、強い精神力と忍耐力が必要だということです。

まとめると、「繊細で用心深く、同時に、強い精神と技の持ち主」ということになると思うのですが、皆さんはどう思いますか？

さて、ここまで「シーマンシップ」を表現した言葉の一つを紹介しながら、マリニレジャーを親しむ方にも知ってほしいと思いお話しを進めてまいりました。この他にも「シーマンシップ」に関わる船乗りの習慣や掟はまだたくさんありますが、特にマリニレジャーの方に知って欲しい良き慣習などについて、次回お話ししたいと思います。(次号に続く)



簡易安全ツール紹介 海中転落に備えて、プレジャーボートにも装備しましょう！『簡易縄梯子』

特に一人乗りの船から海に転落した場合には、自力で船上にはい上がることは非常に困難です。

「ライフジャケットの常時着用」、「防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保」、「海のもしもは118番」の自己救命策3つの基本に加え、縄梯子(ライフロープ)を活用すれば、海中転落した場合でも、自力で船上にはい上がることが可能になります。体力がなくて上がれないという方でも、ライフラダーにつかまった状態で、携帯電話を操作して救助を求めることが出来るので、救助される可能性も高くなります。



縄梯子の作成例

簡易縄梯子は、市販のロープで容易に作成できますので、もしもの場合のために、簡易縄梯子を備えておきましょう。

作成方法については、海上保安部等のHPで紹介されていますので、「簡易縄梯子」「ライフロープ」「ライフラダー」で検索してみてください。

【留萌海上保安部で紹介している作成方法の例↓↓】

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O1kanku/rumoi/uminojyoho/3lg3.htm>



本紙を印刷物でご覧の方へ

マリシ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから！「マリシよろず屋」で検索してもヒットします！

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>